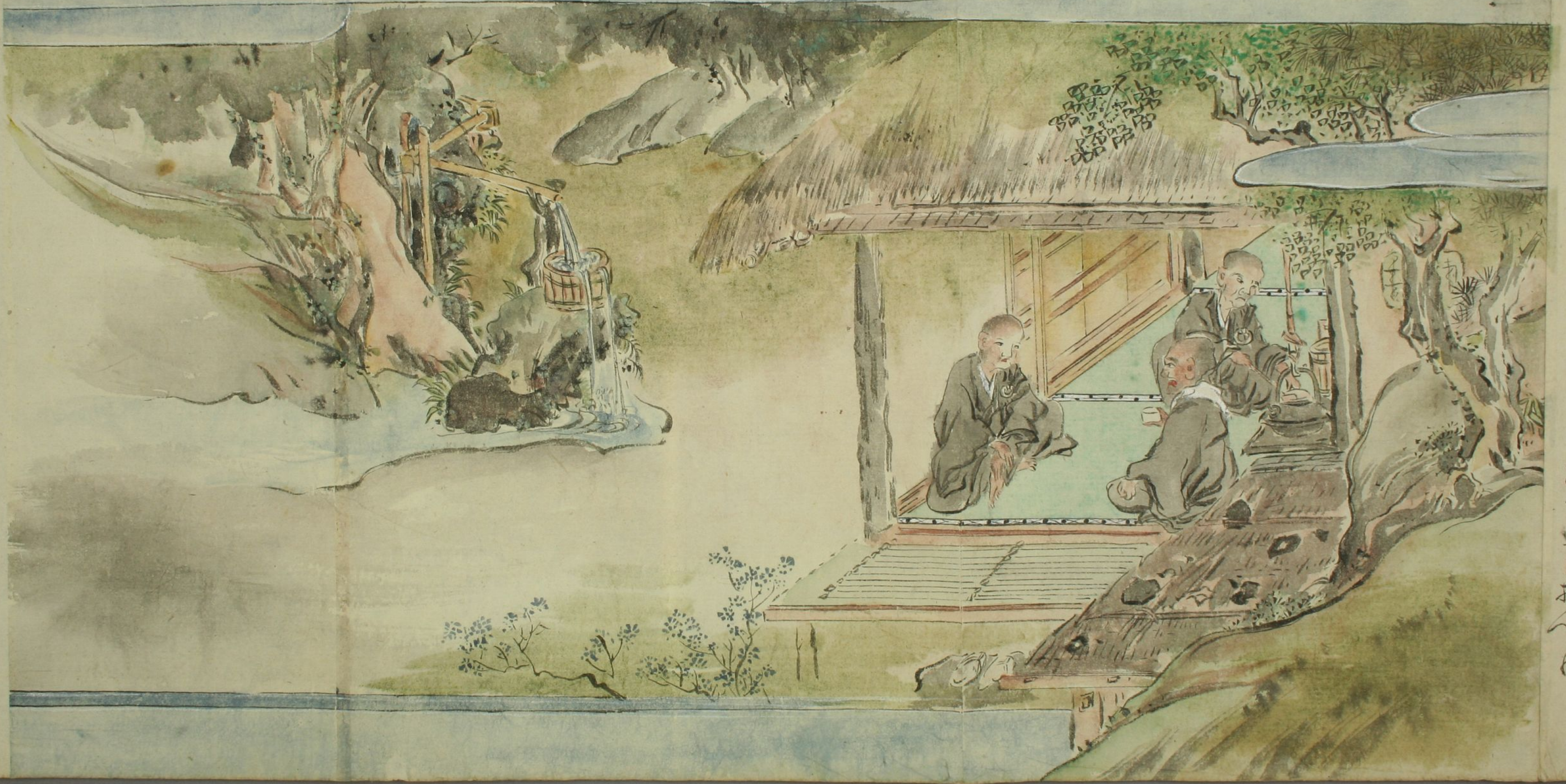


柘弓野山と一帝城をいりて  
 二百里旧里ひらぬ人語  
 八代吉田のあかき一八のたよ  
 きんくうとまゝのなを弘法大師  
 入道一くせの出世三巻のあ  
 いせいしやうしやうしやうしやうしやうしやう  
 入道のほえあらん合俳三巻のあ  
 えあめいせいせいせいせいせいせい  
 三人せんくせんせいせいせいせいせい  
 かんかんかんかんかんかんかんかんかんかん  
 のこむのせいせいせいせいせいせいせい  
 けねねねねねねねねねねねねねねねね  
 かんかんかんかんかんかんかんかんかんかん  
 うんせいせいせいせいせいせいせいせい  
 かかんかんかんかんかんかんかんかんかんかん  
 とくくくくくくくくくくくくくくくくく



2m 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



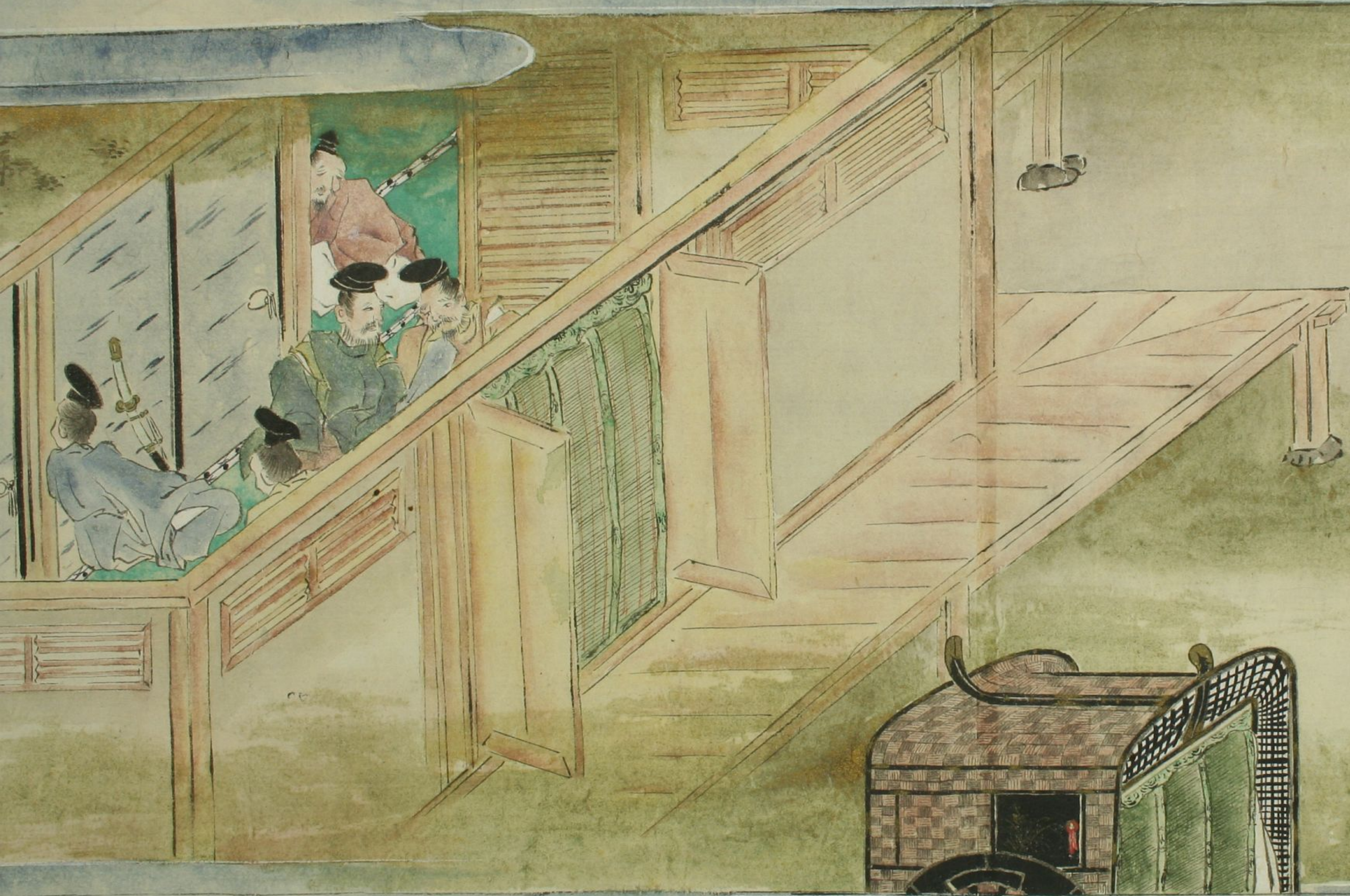
山崎闇斎の書

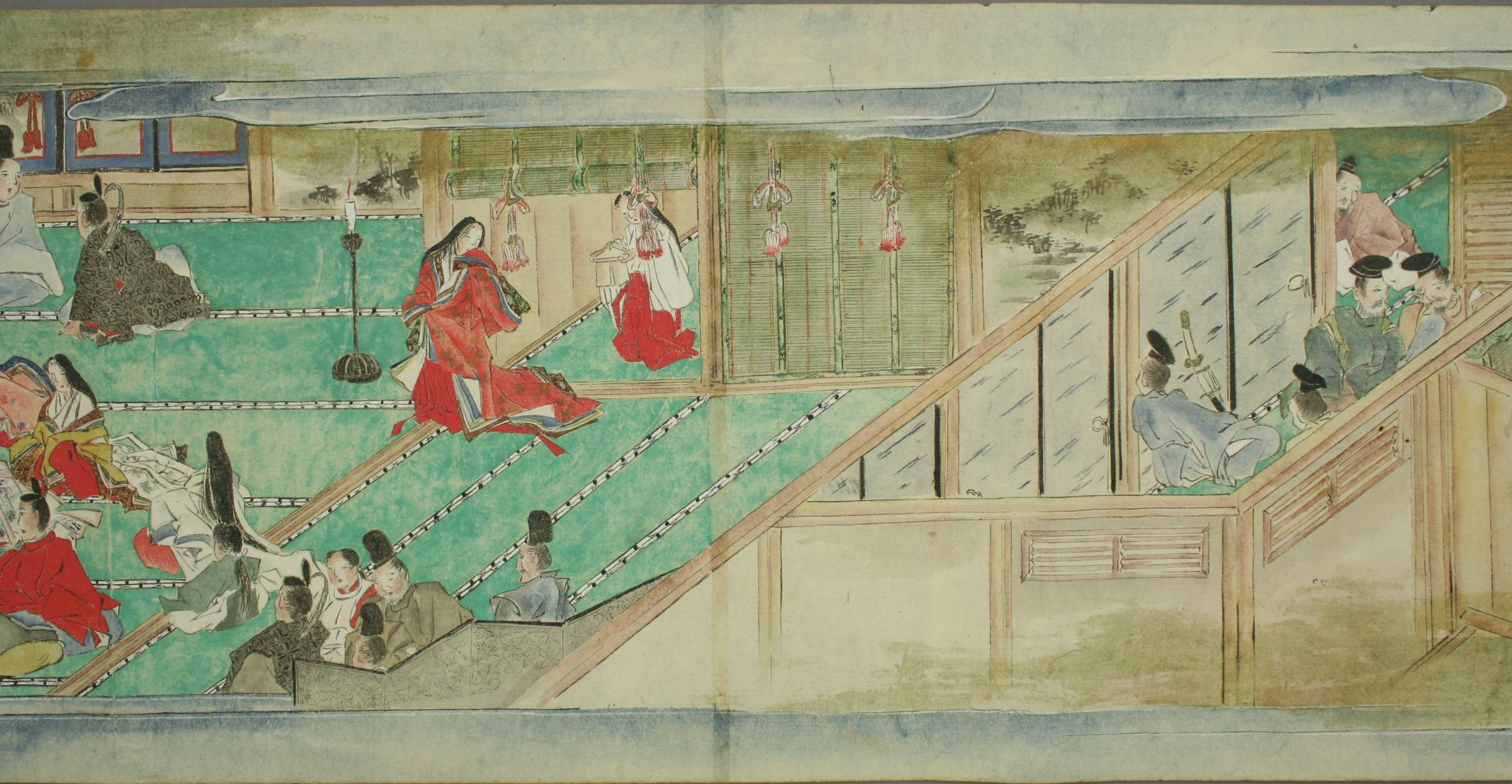


くんにふりかかるとていふに一人も  
いひなくはくをいひしゅうと取  
中乃新まゝのくんと人のおそひ  
らさうあやういとたれいへい  
つあそひむいふははははは  
のそいへはははははははは  
わはははははははははははは  
中くはくはくはくはくはくはく  
年みちち十八九はははははは  
くのくははははははははははは  
乃いふははははははははははは  
るはくはくはくはくはくはくはく  
たそいへはははははははははは  
のくはくはくはくはくはくはく  
ふはととととこれいへはははは  
とはくはくはくはくはくはくはく











下ハ禮人 ありよもほし 今一とあら

思ふ心うらむら 何事をもおろし

ほほあひこ 心よふをわをあらそひ

わをまんと とも持たせりし ちり

あり 一とせれそや ち思ひぬ

し ちり ちり ちり ちり ちり

申すに ちり ちり ちり ちり ちり



下は種人ありよもほし今一と

いこせりんしはにんた

思ふ心もわらわら何事ぞあつ

ははあひこひはうはをあら

はとまんととまきまをり

ありしとせれとせと思ひ

しとて骨を現をちよあんと

申すはとまきまをり

あるあちりしとせと

いこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた

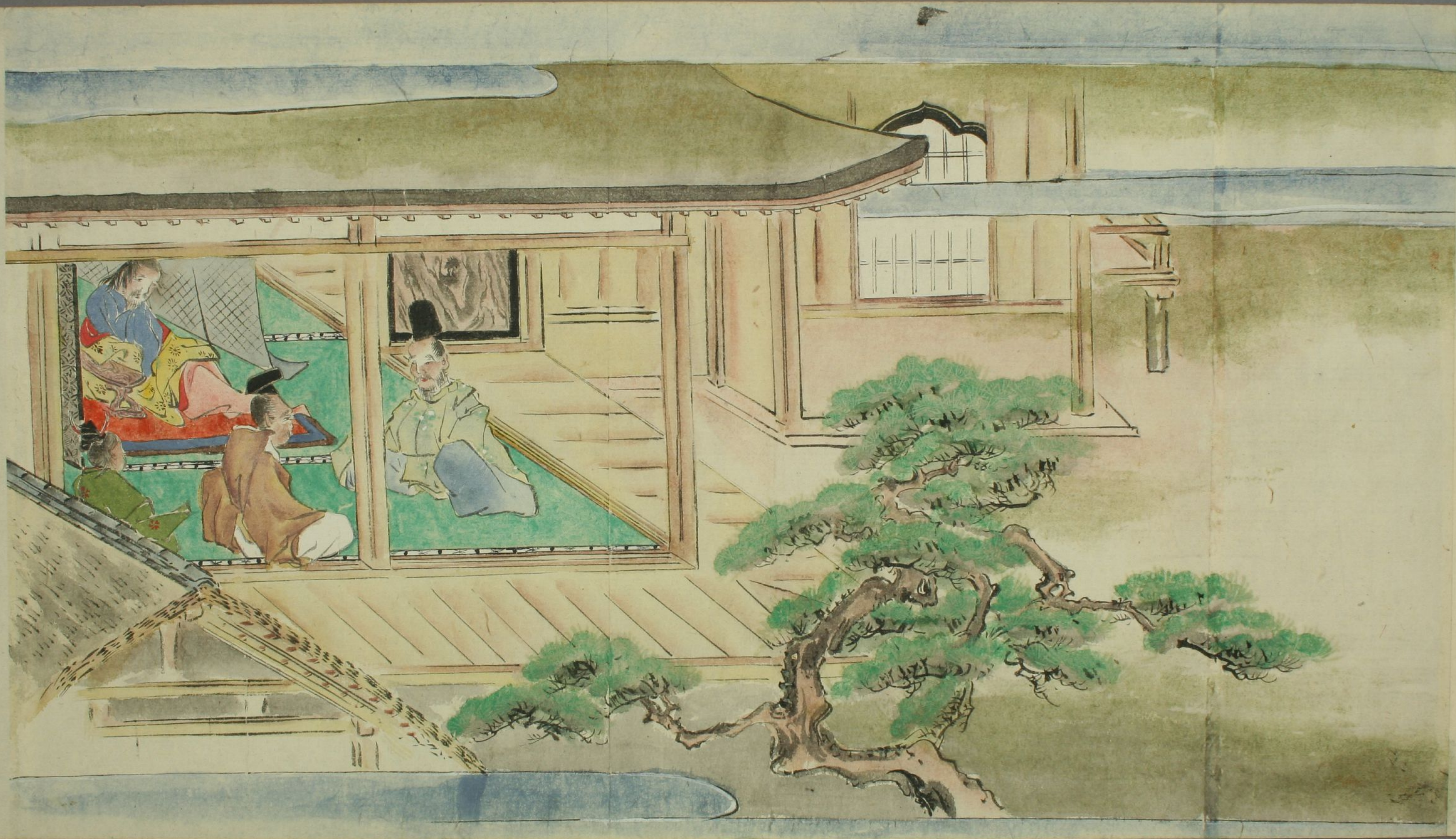
あひこせりんしはにんた

あひこせりんしはにんた





おめかしりらるるをいとせむらふるわ  
つち印葉なんぬいほほく〜と〜と  
其時〜ぬていよまてあ〜るふ乃  
大車を思ひ〜あま〜あ〜知か典  
こころあ〜のいさ〜あ〜あ〜あ〜と  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜と  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜と





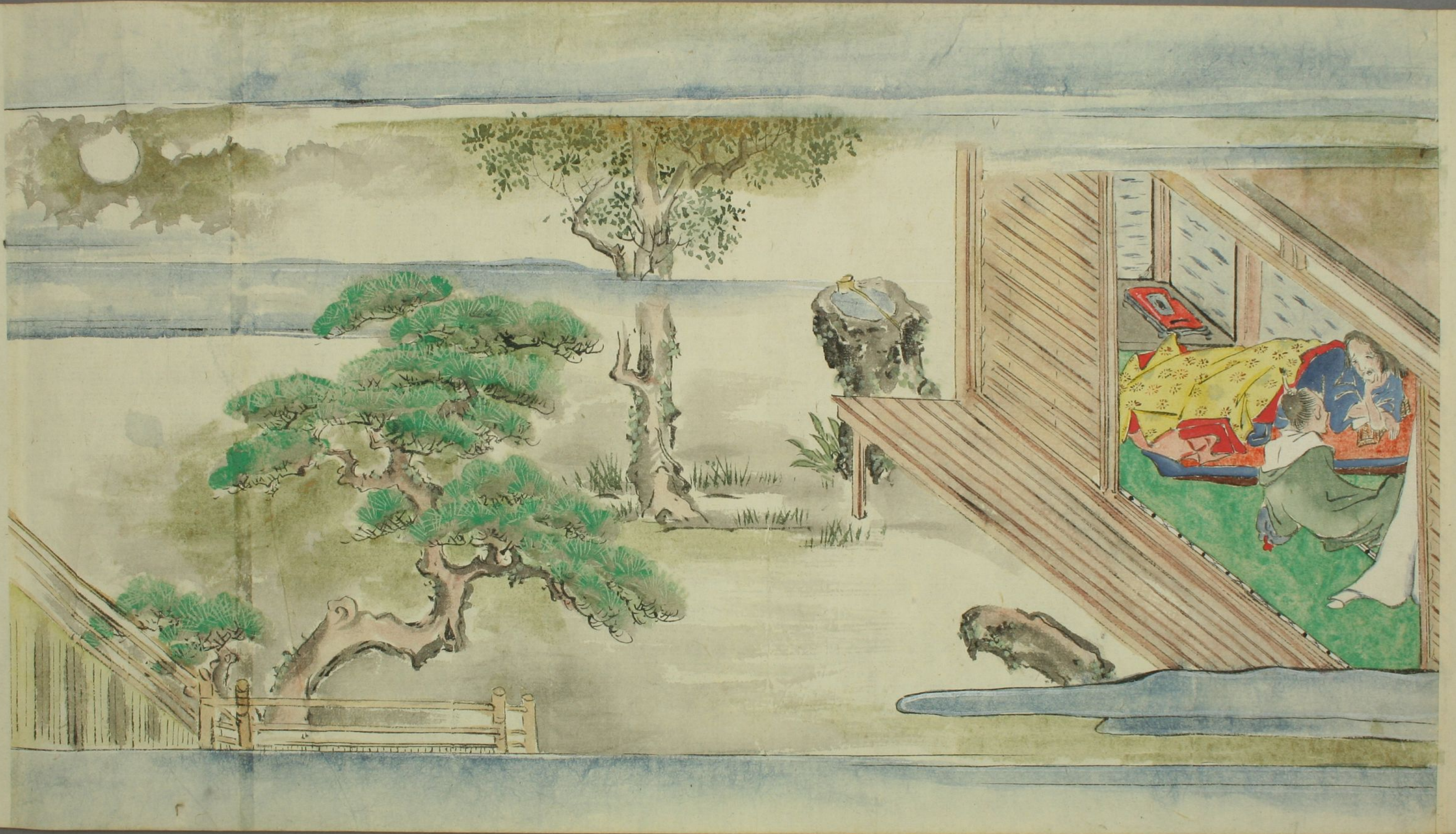
ねんか... 大... 命... 十... 某... けい...



... したる事...  
 ... 命トえおは...  
 ... 女御の事...  
 ... 解一は...  
 ... 物...  
 ... 夫の中...  
 ... 思ひあ...  
 ... 世乃...  
 ... ぬ...  
 ... ぬ...  
 ... ぬ...  
 ... ぬ...



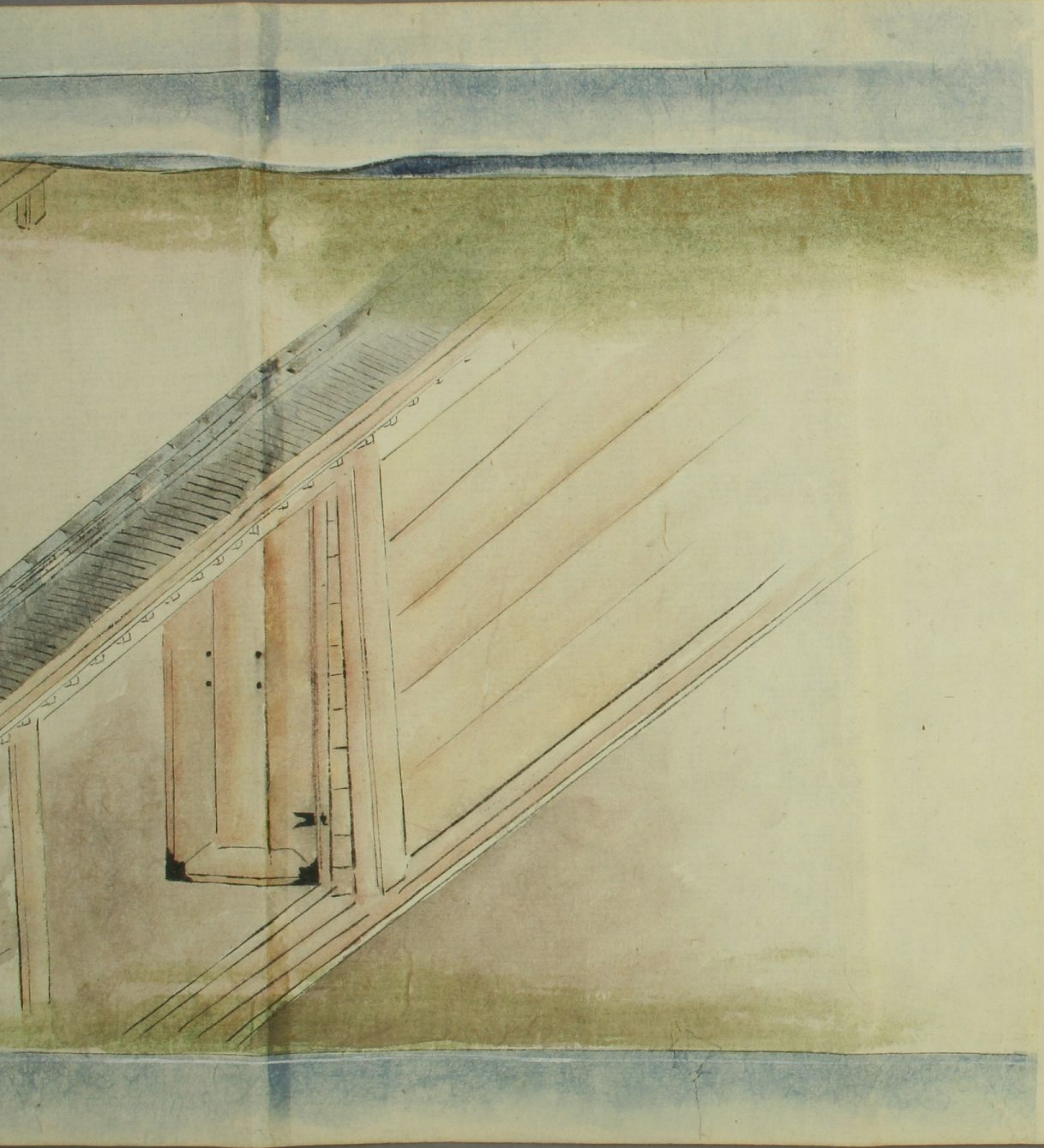






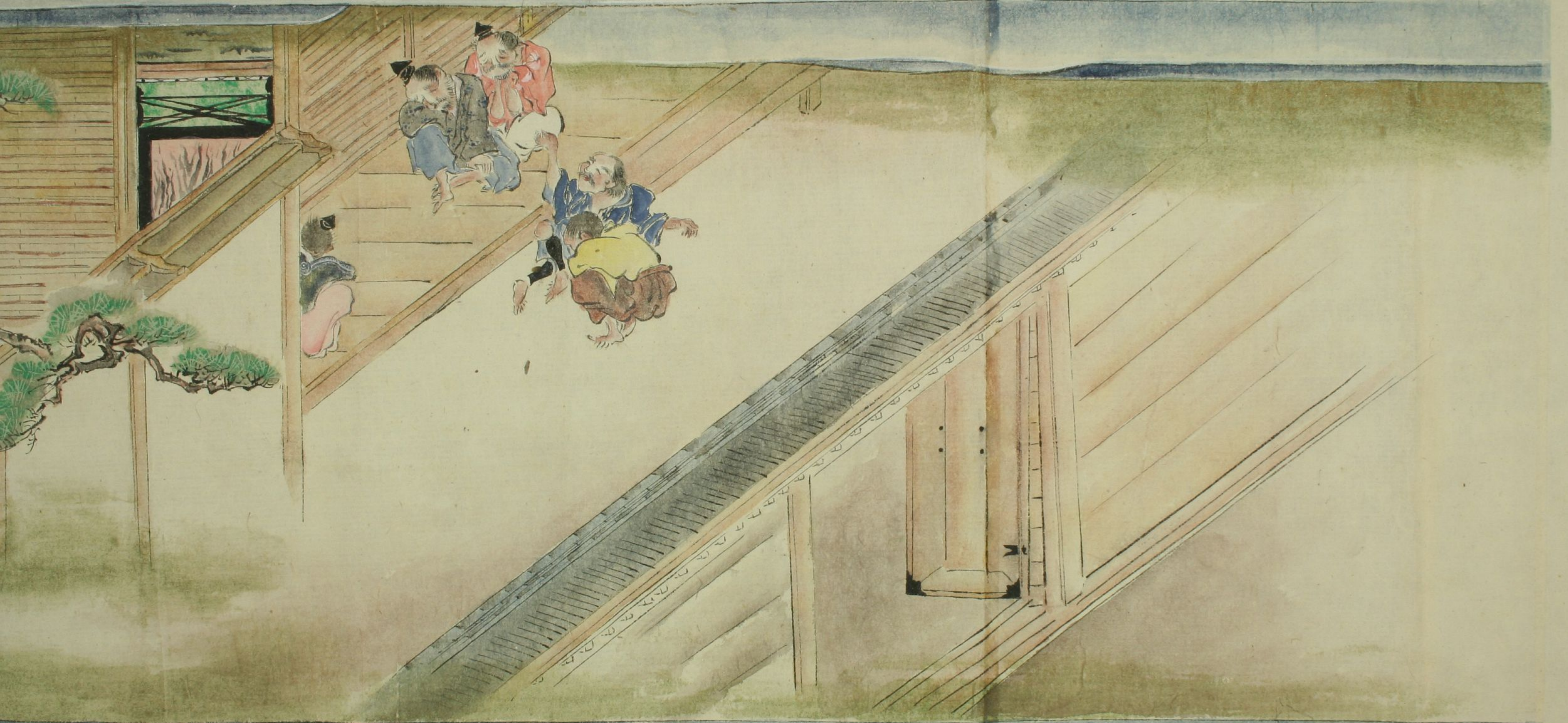




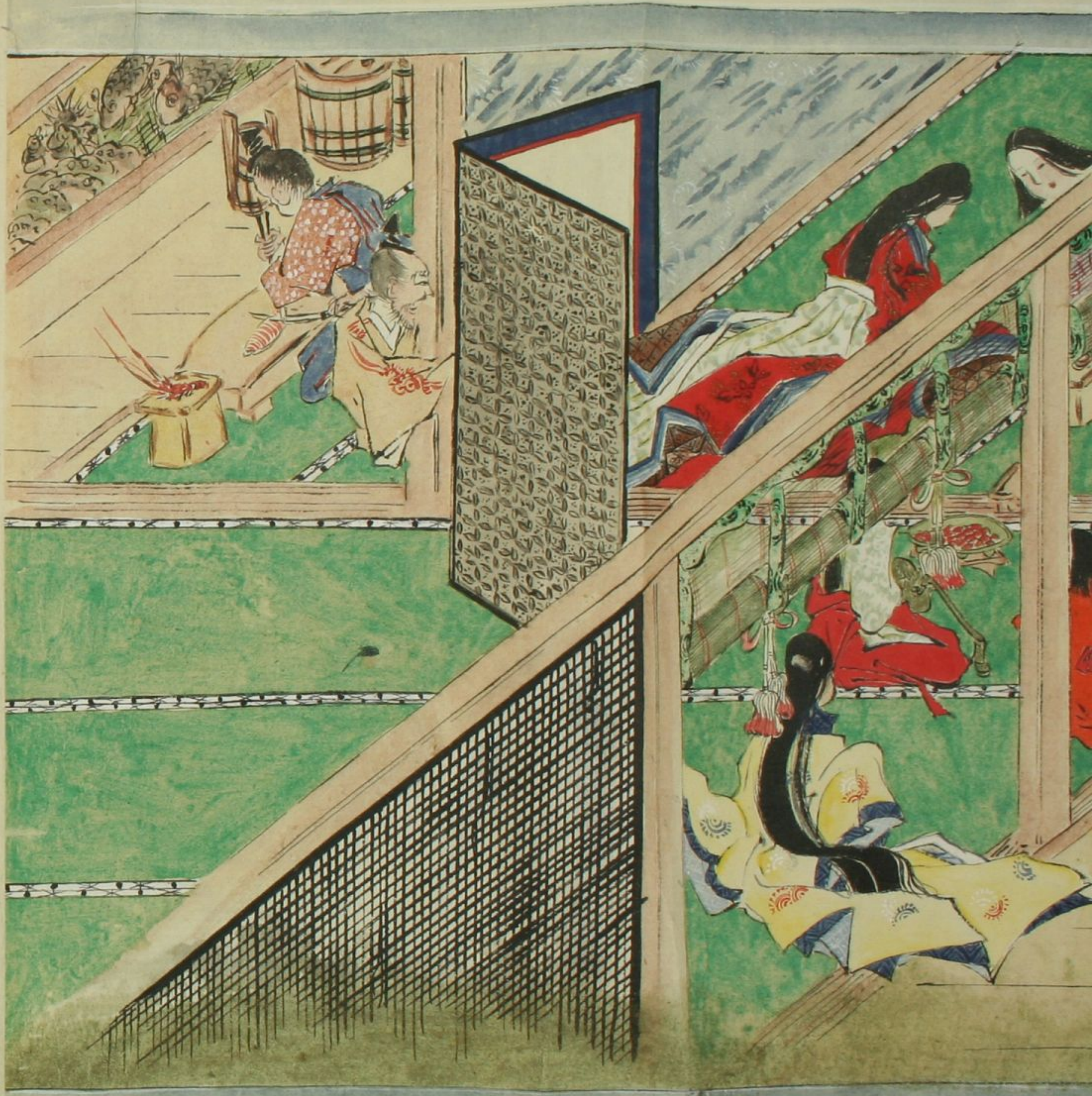


あはれなる御願ひを  
かこふ御願ひを  
かくす御願ひを  
かくさる御願ひを  
かくさる御願ひを

あはれなる御願ひを  
かくさる御願ひを  
かくさる御願ひを  
かくさる御願ひを  
かくさる御願ひを







けふ我がしらふくすつねよいらい  
 又きのいで我おんもくすわわら  
 ちわこくしてきあふしをあら  
 くあてまふをあら  
 くよ乃あをもきくはくかたれ  
 申さや乃からにしんあくを  
 こはあふのあは  
 ちあはは  
 一まのんはあは  
 小野乃てあは  
 ゆははすれはてはつあは  
 はんて極月廿五のしんあは



一、まゝ人よ〜〜〜

〜〜〜又親〜毎月〜

小野乃〜群〜

ゆ〜は〜すれ〜

は〜と〜極月廿五の〜

〜あ〜う〜ほ〜

ふ〜あ〜る〜

〜の〜先〜

〜や〜い〜

〜あ〜い〜

〜あ〜い〜

〜い〜ほ〜

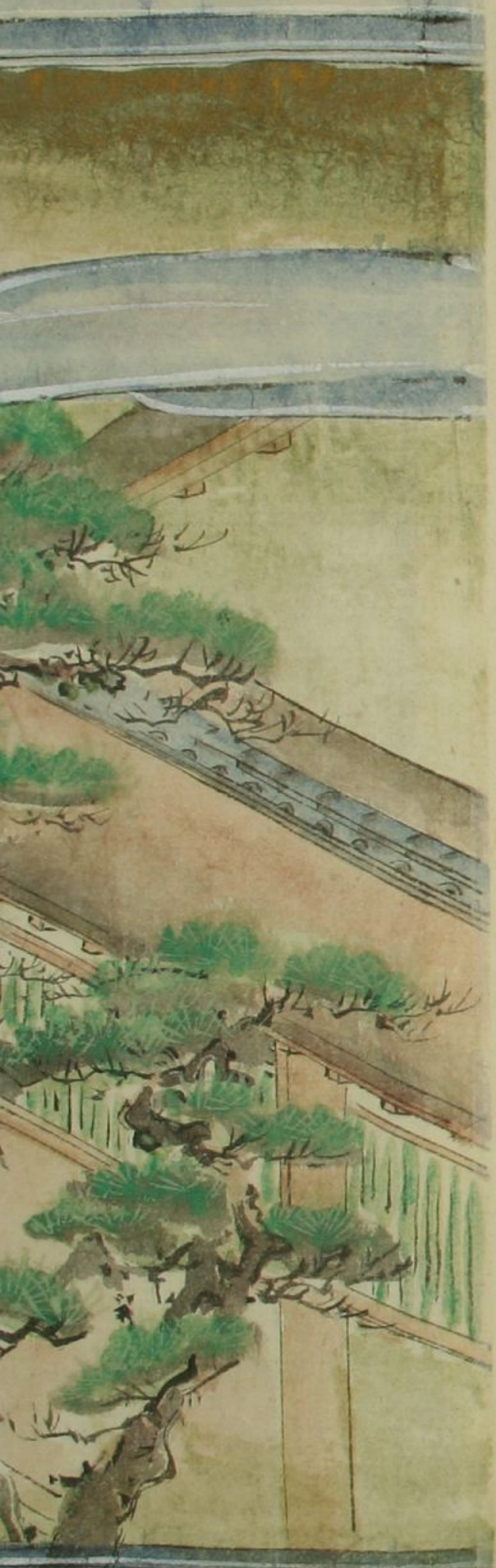
〜て〜あ〜

福地のも〜

〜の〜

〜あ〜

〜の〜





いしとてしめいしめとて  
えらんとていしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて  
いしとてしめいしめとて



ついでにふんまらしてむる一あひまゝいしち  
ん一い乃らあははにむくはむ  
しはふる夢現ともあぢまひん  
まゝ一毛一もむたはむ能の人  
るわしもかたしんかにいんや  
むれんくしむも一まはり  
あましとあむんえこせちり  
あんとりふ千しひあり  
六道了んのだいすくむ所  
ぬこあはは二在出まれと  
をんすいむみぬ一福子  
大層のうけんはむ前並のま  
あんならとありくまはむ  
いしむあまはは一傷  
まらささうひむ火のうら  
えあいふ母もはむさ  
あまふちくと一  
都乃ららむおたは  
いしのらんむはるい  
にあしむ山一のあま  
よあまらむはむるあま  
むちくあま一  
あこあしむとむをな一  
二人乃傳すそめ乃袖を

いかにのらんねを侍るいふるを  
いかにしるねを侍るいふるを  
よふふふふふふふふふふふふ  
むふふふふふふふふふふふ  
あこあしふとほをふふふふふ  
二人乃侍ふふふふふふふ

